



## 紙を可燃ごみとして捨てていませんか？

新聞、雑誌、ダンボールなどのほか、紙類はリサイクルできる大切な資源です。

しかし、皆様のご家庭から出される可燃ごみの中には、まだ多くの紙が含まれていて、その多くは「雑がみ」として紙類の日に出すことでリサイクルができます。大切な資源として有効活用するために、皆様のご協力をお願いします。

### 雑がみって？



菓子箱等



包装紙



レシート



トイレトーパー等の芯

### 出し方

雑がみを分別し、紙袋に入れるか雑誌類にはさみます



雑がみが出ないようにひもで縛ります



紙の収集日に集積所へ出します



### 注意！

汚れや臭いがついた紙やカーボン・ノーカーボン紙、金属が箔押しされた紙は紙として出せません！はがき、料金明細など個人情報を含むものは可燃ごみとして出しても構いません。

健 康

通 信

常陸大宮済生会病院  
小児科医長  
松本 静子先生

## 「鼻汁の色に違いがあるのは何故？」

鼻汁は外来を受診する小児の症状として非常にありふれたものです。その性状は、透明なサラサラしたものからドロドロした色つきのものまで様々です。

鼻汁が出る病気の原因としては3歳以下では急性上気道炎、副鼻腔炎が多く、3歳以上になると感染に加えて、アレルギー性鼻炎の割合も増えてきます。

風邪は何種類かのウイルスの感染で起こりますが、ウイルスが鼻の粘膜に侵入すると、炎症が起こり血管から血液の水成分が漏れ出てきます。これが、風邪の初期にみられる「水ばな」です。

感染が進行している状態の時には「水ばな」が見られません。また、アレルギー性鼻炎の時にも同じような鼻汁が見られるので、くしゃみを伴ったりするかどうかなどの症状で見分けたりします。細菌感染を合併すると、鼻汁の中で細菌が増殖して、細菌や炎症反応の後の白血球や鼻粘膜の一部が混じって白色や黄色、青色の鼻汁に変化します。黄色の鼻汁は、培養すると黄色ブドウ球菌が検出される事が多くあります。やがて、感染が落ち着いてくると、鼻汁の中のムチンという成分が増えて、鼻汁はドロドロとしたものに変化していきます。しかしながら、鼻汁の色だけで病気を診断するのは難しい事です。

外来では鼻汁の色に加えて臨床症状や培養検査の結果などから診断をしています。

初期の風邪は安静にして体を暖かくするなどしていれば自然に良くなっていくことがほとんどです。しかし、鼻の奥の副鼻腔に細菌感染が広がり副鼻腔炎を起こしたり、中耳炎を併発したりする事もあります。長引く症状がある時や、頭痛や顔面の痛みを伴う時には検査をした上で適切な抗生物質を使用して治療することが必要です。

